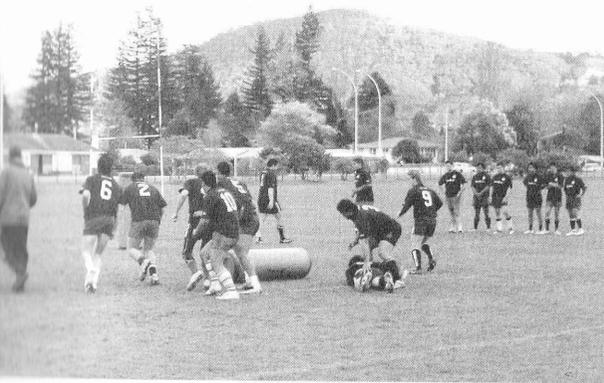


完全  
現地発

# NZラグビー事情

昨季日本一の伏見工を軽々と退けた世界最高峰の強豪高校を「ニュージーランドラグビーブログ」管理人が日々徹底観察

日本人ラグビーマニアが見た「楕円球王国」強さの秘密



世界屈指の強豪国ニュージーランドに移住してからラグビーにハマり出し、現地のラグビー事情を日々発信している筆者。地元ロトルアで彼が見つけてきた、ニュージーランド・ラグビーの強さの秘密に迫る。(文/Kickoff-T(上野貴穂))

ラグビーほどおもしろいスポーツはない。攻守が一瞬で入れ替わる。素早くパスをまわす。身体の大きい選手が全力で走る。それをタックルで止める。格闘技と球技、そして陸上競技を合わせたようなスポーツだ。見ていてワクワクする。興奮する。八十分間全く目が離せない。

ニュージーランドで暮らすようになって、ラグビーが好きになった。きっかけは1999年に開催された第4回ワールドカップだ。赤ん坊から近所のおばちゃんまで、みんなテレビに釘付けだった。オールブラックスの試

合のある時間、街はガラガラ。唯一スポーツバーだけが満員御礼だった。街じゅうの店にトーナメント表が貼られ、新聞のトップ記事は連日オールブラックス。私は、ラグビーにすっかりはまってしまった。

ラグビー王国。それは、暮らしている人が皆ラグビーが好きだ、という意味でもある。ラグビーのおもしろさを、王国と呼ばれる国から、ラグビーを知らない人にも少しでも伝えられればと思った。そこで2005年春、「ニュージーランドラグビーブログ」(URLはPI93参照)を立ち上げた。

## 地域に根ざすラグビー文化

ニュージーランドのラグビーファンの最大の楽しみは、オールブラックスの国際試合だろう。4年に一度のワールドカップはもちろんのこと、毎年行われるトライネーションズ、ヨーロッパ遠征など、その試合がテレビで放映されないことはない。スコッドが発表されるとところから関心が集まる。

もう一つの楽しみは、地元のプロチームをみんなで応援することだ。ニュージーランドには26の地方ラグビー協会があり、それぞれにプロのチームがある。私が暮らすロトルアはベイオブプレンティラグビー協会の管轄で、ステイマーズというプロチームがある。

試合のある日は、街にチームカラーであるブルーとイエローの風船が飾られ、ブルーとイエローのユニフォームを着た人があふれる。スーパー14に出場する5つのプロチームもそれぞれの地元で強く根付いている。ベイオブプレンティと隣の地方のワイカトが一つになって、チーフスというプロチームが作られる。チーフスの選手にはステイマーズの中から優秀な選手が選ばれるわけだから、よりいっそう応援に力が入るわけだ。

地元のチームの試合がある日は、朝からその話題で持ちきりだ。「今日のカレハの調子はどうか?」「ジヨノの怪我は治ったのか?」その一言でほとんどの人に通じる。地元高校の学生寮でも、大きなフラットテ

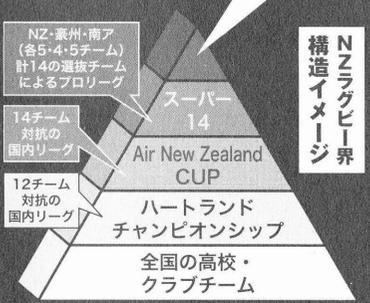
レビが常設され、地元チームの試合が放映されると、ほとんど全員部屋から出てきて夢中で観戦する。その中でラグビー部員は、未来の自分の姿をそこに重ね、目を輝かせながら、夢を膨らませる。

## 代表も国際&国内リーグも大人気 ニュージーランドの ラグビー基礎知識

世界最高峰の強さを誇るNZ代表チーム  
オールブラックス



トライネーションズ、ヨーロッパ遠征、4年に一度のワールドカップなど、NZ代表チームとして国際試合を戦う。ブラックジャージを着ることは、ニュージーランドのラグーマンの夢だ。試合前に行われるハカは闘争心をかきたてる。



### 主なシーズンスケジュール

|     |          |                 |
|-----|----------|-----------------|
| 1月  | スーパー14   | ハートランドチャンピオンシップ |
| 2月  | スーパー14   | ハートランドチャンピオンシップ |
| 3月  | スーパー14   | ハートランドチャンピオンシップ |
| 4月  | スーパー14   | ハートランドチャンピオンシップ |
| 5月  | スーパー14   | ハートランドチャンピオンシップ |
| 6月  | オールブラックス | ハートランドチャンピオンシップ |
| 7月  | オールブラックス | ハートランドチャンピオンシップ |
| 8月  | オールブラックス | ハートランドチャンピオンシップ |
| 9月  | オールブラックス | ハートランドチャンピオンシップ |
| 10月 | オールブラックス | ハートランドチャンピオンシップ |
| 11月 | オールブラックス | ハートランドチャンピオンシップ |
| 12月 | オールブラックス | ハートランドチャンピオンシップ |

全国に26のラグビー協会があり、それぞれにプロチームがある(全国の高校も各地方協会に所属)。プロ上位14チームでAir NZ Cup、残り12チームでハートランドチャンピオンシップが行われ、26の地域を5つに分け選抜された選手で結成された5チームと、南アの5チーム、豪の4チームで行われるリーグ戦がスーパー14。そこで活躍した選手などからテストマッチやトライネーションズを戦うオールブラックスが選抜される。



※2007年のトライネーションズは、ワールドカップ開催のため例年とは違うスケジュール(6月16日~7月21日)になります。

### BK ラン&パス練習



自由度の高いラン&パス練習。BKコーチが選手と一緒にボールを回す。「基本はアンダートレーニング(オーバートレーニングの反意語)。選手の創造性や勢いを潰さないよう意識して取り組んでいる」(校長)。

### FW・HB スクラム・ラインアウト練習



ラインアウトの基本パターンの反復と、スクラムマシンをひたすら押し続ける練習。「BKの攻撃のチャンスを広げるための重要な練習」(校長)。選手にスクラムの掛け声は「1、2、3、4、スクイズ！」。

### 対戦相手を想定した オーバー・ジャッカル練習



次の試合の対戦相手との様々な状況を想定したオーバー・ジャッカルなどのケース別の練習。「この練習に全体の3分の1の時間を割く。試合に近い状況を作ることで、対戦相手と戦うイメージを強く持つことができる」(校長)。

### フィットネス重視の ボールプロテクトの練習



タックルした直後にラックサイドを突いてくるアタック側の選手を止める練習。「フィットネスを高める練習の中にスキルアップのメニューを入れている。厳しい練習の一つだが、選手の身体機能はもちろん、ラグビースキルそのものがアップする」(校長)。

**週2x90分の基本練習が強さの秘密**  
一軍の全体練習は週2回、約90分。個人練習は各自別途取り組んでいる。「他の強豪校に勝つために最も重要なのは基本練習」とクリスリングランター校長が語るように、選手は基本プレーを徹底して反復練習する。対戦相手を想定し攻撃パターンをシミュレーションするチームランが練習の締めだ。



NZ屈指のラグビー強豪校  
ロトルアボーイズハイスクール



サニックスユース大会で優勝経験のあるNZ屈指のラグビー強豪高校。ラグビーの環境も世界トップレベル。

### 「ボーイズハイスクール」練習観察記

私が約10年間暮らしているロトルアは、温泉と湖、そしてマオリ文化で有名な、自然あふれる人口約7万人の美しい観光地だ。

この小さな美しい町に、ニュージーランド屈指のラグビー強豪高校がある。「ロトルアボーイズハイスクール」。過去9年間のうちニュージーランド全国優勝3回を誇り、それ以外にベスト4以内に入っている。毎年春に日本で行なわれるサニックスワールドラグビージュニア大会で優勝経験もある、日本でも名の知れた高校だ。

過去に7人のオールブラックスを輩出したこの学校がラグビー強豪高校であり続ける理由は、三つある。一つ目はその環境。二つ目は校長自らラグビーの指導を行なうこと。そして三つ目はカリキュラムにラグビーが組み込まれていることだ。

グラウンドはラグビー場が3面とサッカー場が1面取れる。もちろん全面天然芝だ。ゴールポストは3面とも常時立てられていて、ボールさえあれば全ての学生がいつでもラグビーを楽しめる。休憩時間中にグラウンド内でパスされているラグビーボールの数は、優に50を超えているだろう。登下校時、ラグビーボールを持って歩いている生徒の数も数え

切れないほど多い。

ロトルアボーイズハイスクールの校長、クリスリングランターはラグビーのコーチでもある。彼の場合、ラグビーのコーチが校長をやっている、と言った方がいいかもしれない。ファーストフイフティーン(一軍)の練習には必ず顔を出し、練習中は時間が許す限りグラウンドに立って直接指導を行なう。

「クリスはすごい。練習中ずっとグラウンドに立って学生を指導している」と言っと、「当たり前だ。コーチなんだから」と言う。「日本では全てのコーチが練習中ずっとグラウンドに立っているわけじゃないらしいんだ」と言っと、「じゃあコーチは練習中どこにいるんだ?」と、逆に質問された。

校長以外に今年はコーチが2人いる。一人は学外からのコーチでルキィテブナ。ロトルアボーイズハイスクール出身で、ステイマーズの現役の選手でもある。もう一人はゴードンハント。彼も同校の卒業生で、在学中はファーストフイフティーンでプレー。大学在学中にはニュージーランド大学選抜選手として、日本にも遠征した経験がある。彼はこの高校の教師である。

ルキィとゴードンは、「ラグビーアカデミー」のコーチもやっている。ロトルアボーイズハイスクールでは、選択授業の中にラグビーアカデミーがあり、卒業単位として認められている。他の生徒が音楽や体育などを受けている間、ラグビーアカデミーの授業を受けることができる。毎日2時間、週10時間がラグビーアカデミーに充てられる。授業中はコーチが付きっきりで個人指導する。基本的にはグラウンドでの技術指導が中心だ。

どの練習でもほとんど指導方法は同じだ。まずトレーニングの説明。その後コーチが実際にやってみせる。次に一人ずつコーチの前で練習し、その都度コーチはできていない点、うまくできているところを指摘する。それを繰り返す。うまくできないからと言って怒ったりはしない。どこが違うのか、どうすればうまくできるのか、何故そうしなければならぬのかなど、詳しく一人ずつに指導を与える。必要であれば、コーチが何度でもやってみせる。うまくできれば周りの生徒とともに、拍手。「いいぞ、その調子だ。それでもいいんだ」とどんどんほめて生徒の力を引き出し、自信をつけさせる。それがニュージーランド流の指導方法だ。

### 「ニュージーランドラグビーブログ」より 日本の練習と ニュージーランドのトレーニング 2006/10/12 (木) 19:37:02

現在ロトルアボーイズハイスクールに高校ラグビー留学をしている16歳の日本人留学生に、一つ質問をしてみた。

「ロトルアボーイズハイスクールのラグビートレーニングと日本での練習との大きな違いは何?」

彼ははっきりと即座にこう答えた。

「日本のラグビートレーニングは、気持ちでやるトレーニングです。それに比べて、ニュージーランドのラグビートレーニングは、頭でやるトレーニングです」

「日本では、ある練習を行なうとき、とにかくこの練習が必要だからするのだ、という言い方をよくされます。何故とどうしてとか、理由は説明されないまま練習が行なわれるので、最後まで何故そうなのかという疑問を持ったまま練習をしていました。というより、疑問を挟む余地がありませんでした」

「それに比べて、ロトルアボーイズハイスクールのコーチの指導に対して、何故そうするのですか、と聞くと、必ずその理由を分かりやすく説明してくれます。トレーニング中も、自分の悪いところを指摘してくれる際、何故そこが悪いのか、改善するとどういう効果があるのかを、きっちりと一つ一つ説明してくれます。だから、納得してトレーニングができるんです。ここでのトレーニングは、常に頭で考えながらやるのが要求されます」

コーチのルキも、言っていた。

「例えばタックルをする時も、常に周りの状況や相手の大きさなどを考えて、どうタックルするのかを考える瞬間的な判断が必要だ。いつも誰にでも同じタックルをするのではない。常に考えながらプレーをするためには、常に考えながらトレーニングをする必要があるんだ」(Kickoff-T)

担当編集ミニコラム

「ラグビー王国」初探訪記

ラグビーと言えばNZ、NZと言えばラグビー。約12年間日本のラグビーしか観てこなかった私(担当編集)は、個人的興味と言うより半ば使命感に駆られて、去る8月に初めてニュージーランドへ降り立った。

オークランド空港からタクシーで市街地に向かう途中、いくつもの学校が見えたが、グラウンドにはほぼ例外なくH形のゴールポストが。さすがラグビー王国。日本でいえばサッカーのゴールが当たり前にある感覚だ。さらに驚いたのは、滞在3日目にKickoff-T(上野貴穂)氏と訪れたロトルアボーイズハイスクール。本文中にもあるが、天然芝のグラウンドが3面も完備されていた。ラグビーの浸透度、環境、規模、日本とはまるで違う。ジャパンが世界の強豪と対等に戦える日が来ることを夢見ている私だが、NZに勝てるのは果たして何年先になるのか。正直、気が遠くなってしまった旅だった。



オークランド中心部に並ぶオールドブラックスのショップ。こうした街並みにもその目標が現れている。

「ニュージーランドラグビーブログ」より  
伏見工業 vs Rotorua Boys' High School (RBHS)  
2006/07/31(月) 15:05:32  
先日、伏見工業ラグビー部が、ロトルアに遠征。Rotorua Boys' High School (RBHS)と練習試合が行われた。  
RBHSは、サニックスワールドラグビースポーツの大会で優勝経験のある強豪チームだ。あいにくの天気であったけれど、伏見工業の2軍チーム対ロトルアボーイズハイスクールの3軍のチームの試合を見に行ってきた。  
RBHSのグラウンドは、全面芝生。ラグビー場が3面取れる広さだ。北のグラウンドでアンダー15と伏見工業の3軍の試合が行なわれている間に、南のグラウンドで伏見工業の2軍の試合が行なわれる。これらの試合の終了後に、両校の1軍同士の試合が、中央のグラウンドであった。  
伏見工業2軍とロトルアボーイズハイ3軍の試合。前半はほぼ互角。2トライずつの14対14で折り返した。  
後半は、力の差がじわりじわりと得点差を押し広げる。  
ロトルアボーイズハイスクールの3軍は、後半4トライ。それに対して、伏見工業2軍はトライできずに終わる。  
試合終了後、RBHSがハカを披露。このハカは、RBHS独特のハカで、ABsがやっているハカとは、また違う。伏見工業のメンバーも、一列になってハカに見入る。  
最後は、握手で、お互いの健闘をたたえあう。  
ちなみに、伏見工業の1軍対、RBHSの1軍の試合は、34対5で、ロトルアボーイズハイの勝利でした。



前半は両校互角の戦い。体格差をものともせず伏見工業はぶつかる。速さでもやボーイズハイスクール有利か。



一種の国際試合。皆必死でボールを追う。ロトルアボーイズハイスクールにはフィジーからの留学生も多数在籍。



試合後ロトルアボーイズハイスクールの選手が伏見工業の健闘をたたえハカを披露。伏工の選手もじっと見入る。

～中略～

高校でラグビーをやろうと思っている、日本の中学生とそのご両親の皆さん。日本の中学を卒業してラグビーを続ける方法の中には、ロトルアボーイズハイスクールでニュージーランドのプロの選手から直接マンツーマンで教えてもらいながら、高校の単位も取得できる道もある、ということを知っておいてください。そして、現在、1人の日本人留学生が、ニュージーランド人やフィジアンたちに交じって、たった一人で異国の地でがんばっていることも、知っておいてください。

その、RBHSの3軍にいる日本人留学生は、今回伏見工業の2軍に勝てたことをとても喜んでいました。日本の高校に行かず、ロトルアボーイズハイスクールに来て、ラグビーをやっている、本当によかったと言っていました。

RBHSを卒業したら、ひょっとしたら、ニュージーランドでプロとして活躍できる可能性もあるかもしれません。少なくとも、日本の高校でラグビーをしているよりも、英語は話せるようになりますし、日本では絶対にできない経験もできます。ニュージーランドの大学に進学する可能性もありますし、オーストラリアやアメリカやイギリスの大学に進む道も開かれます。また、帰国子女枠などで、日本の大学に入学することもできます。あるいは、日本でプロとして活躍することも考えられますし、トップリーグなどの企業でラグビーを続けることもできるでしょう。

日本と一番違うことは、ニュージーランドをはじめ、フィジーなど、世界中にラグビーの仲間ができることです。

日本人初のオールブラックスを目指す中学生の皆さん。ロトルアボーイズハイスクールへの入学を一度考えてみてください。今後の人生、ラグビーを続けていく道は、日本だけにあるのではない、ということも、一度考えてみてください。そんな若い日本人ラグーマンを、私はニュージーランドにいて、心から応援したいと思っています。(Kickoff-T)

一部は、ファーストフイフティーンからフォースフイフティーン(四軍)、そして15歳以下のチームに分かれている。その中でも、ファーストフイフティーンは特別な存在だ。地元の小中学生の中にも、ロトルアボーイズハイスクールのファーストフイフティーンに入るのが夢だ、という子がいるくらいだから、子

供たちにとってまさにあこがれの存在といっ  
ていいだろう。

このファーストフイフティーンに選ばれるのは容易ではない。コーチも、学校の代表チームであるファーストフイフティーンにどの学生を選ぶか、100パーセント実力重視の厳しい選抜を行なう。なぜなら、ニュージーラン

楕円球を本気で追うならNZ

「環境が全く違う」

ラグビー留学をしている日本人高校生が、目を輝かせていつもいう。ラグビーを最高の環境でやりたいなら、彼の選んだ道は間違っていない。日本一を目指すのもいいけれど、せっかくなら世界一を目指してみるのもいいだろう。まだ十代の若者に、かなえられない夢などないのだから。

私はニュージーランドに来てラグビーにハマってしまった。この国には、人を熱烈なラグビーファンにしてしまう不思議な力がある。ラグビーが人々の生活に入り込んでいる。そんなラグビー王国から、ニュージーランドラグビー事情を、ファンの視点でこれからも発信し続けたいと思っている。

http://nzrugby.blog9.fc2.com/

ニュージーランド留学を真剣に考えている中学生・ご両親はこちらへアクセス  
Kickoff New Zealand  
http://www.kickoffnz.co.nz/  
ニュージーランド留学  
ニュージーランド留学の魅力を伝える。現地生活や文化、教育、スポーツ、観光、ビジネス、留学のサポートなど、様々な情報を提供します。

ニュージーランドラグビーブログ  
ニュージーランドと日本を結ぶ、草莽系ラグビーブログ  
オールブラックス欧州遠征 スカッド  
10月22日(日)オールブラックスのメンバーが発表された。  
10月22日(日)オールブラックスのメンバーが発表された。  
10月22日(日)オールブラックスのメンバーが発表された。  
10月22日(日)オールブラックスのメンバーが発表された。